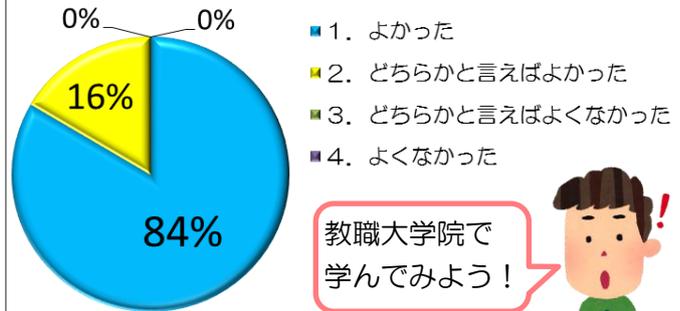




- 知識を実践できる力をつけたい
- 学校で活躍できる教師になりたい
- 見通しをもって、学級や授業づくりを進めたい
- 道徳や特別支援教育など、最新の教育情報を学んでおきたい



問 教職大学院に修学してよかったですか？  
(修了生調査：H27実施，対象125名)



教職大学院で  
学んでみよう！



修了生125名が証明しています！⇒

## 教職大学院で学修して、自信をもって 教壇に立つことができる力を身に付けよう！

工学部や応用生物科学部の学生さんが、「教職支援課程支援室」で教職を学び、さらに「教職大学院」に入学し、教員採用試験に合格しています。専門知識を教員として発揮したい方、教職課程支援室、教職大学院が、皆さんの学びを支えます。



教職大学院 M2  
佐川遼磨さん

私は、「応用生物科学部で学んだ自分の専門的な知識を生かした教師になりたい。」と考えました。そこで、学部生のときは、教職課程支援室の講義を受け、教職とは何なのか、今必要とされていることは何なのか等、教師に必要な知識を学びました。教職大学院では、更にその知識を現場に繋げるためにはどうすれば良いかを、学校での実習を通じて現場の先生方から学んだり、最新の理論を体系的に学んだりすることで、自身の軸を形作ります。私の場合は、学部生のときの「何をどのように教えたらよいか」という考えに加えて、「理科を通して生徒にどのような力をどのようにつけるか」という考えをもつことが出来ました。応用生物科学部で身に付けた専門的な知識や最新の知見は、高校教師には欠かせない力になります。そこで得た力に、教職支援室や教職大学院での学びを加えることで、現場に出た時の自信になると思います。

## このQ&Aは教職大学院を修了したストレートマスター（学部から大学院に進学した者）の声から作成しました

Q1：総合教育の大学院と教職大学院の違いは何ですか？

A1：総合教育では、各教科の深い知識を学ぶことができます。教職大学院では、学部で学んだ知識を学校において活用するための視点を学び、実践力を身に付けます。

Q2：講義はどのような雰囲気ですか？

A2：理論についての講義とともに、具体的な実践や事例を検討します。現職の先生方(院生)との話し合いの時間等も多く設けられており、充実した時間を過ごすことができます。

Q3：ストマスも理解できる講義内容ですか？ 現職の先生方(院生)についていけますか？

A3：現職の先生方とストマスでは学修目標が違います。皆さんに理解できる内容を用意しています。

Q4：現職の先生方(院生)とは打ち解けられますか？

A4：学校では大先輩ですが、大学院では同級生です。自由な関係で話ができます。

Q5：実習ではどのようなことをやるのですか？

A5：教職大学院での実習は、学校の仕組み、子ども理解、学級経営、授業づくりを総合的に学びます。例えば、授業では、1単元分の指導計画を作成して授業を実施します。

Q6：教職大学院で学んだ成果はどうかされますか？ 2年間現場に出るのが遅いので心配です。

A6：視点をもって教育実践を考え、実行し、振り返ることができることが最大のメリットです。

### 修了生の実際の声

#### <第6期：平成27年度修了生>

2年間学んだ分、得られるものが多いと思います。始めは、2年分友だちより遅れを取る感覚がありました。しかし、子どもの自尊感情の向上をテーマとした開発実践報告をまとめる中で、視点をもって実践を考える力が身につきました。自分の対応は、子供の成長の何を大切にして行ったのか、納得しながら対応できると思います。また、1年を通しての実習を行うことで、働いてからの1年を見通すことができるため、新採で右も左も分からないはなく、少し見通しを持てたり、心に余裕を持てたりすると思います。

#### <第5期：平成26年度修了生>

教職大学院に入って本当によかったと思っています。その一番の理由は、「良い授業(学級)はこうなる。」という具体的な理想像を持って現場に出られたことです。ベテランの先生方の子どもも対応や授業に関する意見が聞ける機会、優れた実践を見られる機会の多さは、現場の2年間とは比べ物になりません。授業を見せて頂く際に何を見ればよいのか学べたことも大きく、現場に出てからも効率よく吸収できます。

#### <第4期：平成25年度修了生>

大学院では「経験できない現場」を学ぶことができたと感じます。若手教員の立場はもちろんのこと、校長、教育長の立場で現在の学校課題に対峙し、県・市全体を視野に入れた学校経営・授業づくり・校内研修・特別支援等、幅広く捉え、現職の先生と議論を重ねることができたと思います。この経験は現場1年目の学級経営・授業研究に活かされ、さらに数年後学校のミドルリーダーとなった際の役職・校務分掌にも対応できる応用力・発想力につながっていくと感じます。

#### <第3期：平成24年度修了生>

私は、採用試験合格後に教職大学院に進学。慌ただしい現場に出る前の貴重な時間を頂きました。自分は何のために教員になってどういうことがしたいのかという教育観や、より分かりやすく授業を行うための

ICT活用の技術を身につけました。その後、現場に出て4年目で、授業コンクールの優秀賞を受賞することが出来ました。全ては、教職大学院の学びのおかげです。たったの2年間、そこに無限の可能性があり、それを活かすも殺すも、自分次第だと思います。私はその時間を最大限に活用できました。

<第2期：平成23年度修了生>

現場に出ると大学院で学ぶのは得るものの種類が違い、比べることは難しいです。大学院での学びは、学校全体や教師・子どもの多面的・多角的な見方、教師としての立ち位置や考え方を学ぶことが出来ました。また、大学院の先生や現職の先生と様々な話をゆったりとした時間の中でして多くの知識を得たり、出会った御縁から卒業後もつながりがあったりと、現場に出るのでは経験できないことも得ることが出来ました。初任校では、教頭や教務主任の動きを見て気づいて動くことができたり、校務分掌（体育主任）で学校全体を引っ張っていくことができたりしたのも、大学院での学びがあったからだと思います。

<第1期：平成22年度修了生>

子どもの指導法や授業の進め方、保護者との付き合い方などについては現場に出た同期の方が得ることが出来ますが、これらは2年間の間では力量が高まったというよりも慣れたと感じている同期が多いです。そのため、現場に出たあとでも、追いつくことは出来ます。（大学院時代は焦りがありますが…）また、これらについては実習で多くを学ぶことが出来ますが、立場上見て学ぶことが多いです。実習生という立場でなくて、副担任として家庭訪問や学級懇談会などを含め多種多様な経験を積むことができると、経験豊富な担任の先生の指導のもと、いろいろな経験ができるので、より教師としての力量が高まり、現場に出た同期との差を感じることも少なくなるのではないかと思います。